



富山での何気ない日常～新しい土地での新しい生活～

川上 翔太郎（運動生理学）

今回は富山での何気ない日常についてお話ししていきます。簡単に自己紹介すると、私は九州で生まれて2024年3月まで九州で過ごしてきました（鹿児島生まれ、福岡育ち）。本学で私は講義では健康科学科目を担当しており、研究専門は運動生理学・運動処方学・腎臓リハビリテーション学です。最近の研究活動については別コンテンツ（最近の研究成果）に詳細を書いていますので、ご興味をお持ちいただけた方はそちらを読んでいただけたら嬉しいです。

私は2024年4月に富山県立大学に赴任しましたが、早くも1年が過ぎ富山2年目になりました（本コラム執筆時点）。ひとまず冬を越えられたのでホッとしています。富山での生活は今までの（九州での）生活とは大きく異なり、驚きの連続でとても刺激的で新鮮なものです。正直、同じ日本でこんなにも違うのかというほど取り巻く環境が一変しました（笑）。今回は福岡（九州）から富山（北陸）に移り住んできて感じたことを書いていきたいと思います。

九州と北陸との大きな違いは雪の降り方です。2024年の冬、雪が降るたびに人生最大の積雪量を更新し続けました。九州に住んでいた頃は4年に1度くらいうっすら雪が降るくらいで、富山での雪は笑っちゃうくらい降って（2024年冬は私の足首が軽く埋まるくらい）、息子（本コラム執筆時、2歳）がいますが大はしゃぎでした（右写真）。また、九州（福岡）では雪が（うっすら）積もるくらい降った場合はタイヤにチェーンを巻いていたので、CMで見たことはありましたがスタッドレスタイヤは初体験で、冬の雪道での車の運転はとても緊張しました。また、富山に来て驚いたことの一つに、自宅や大学近辺の至るところの道路や駐車場が茶色いことが挙げられます。これは融雪装置（これも初めて見ました）によるもので、雪が降ると融雪装置から水が噴水のように出て雪を溶かしてくれます。使われる水が地下水で、地下水に鉄分を多く含むため道路や駐車場が茶色くなるようです。また、2024年3月16日に北陸新幹線 金沢駅～敦賀駅間開業したこともあり、アクセスがさらに良くなりました。この一年で北陸3県のみならず関西や関東・北海道など色々なところに行きました。さらに、先日はお隣の新潟県にも車で行つきました。また、九州も美味しい食べ物が多いですが、北陸もお米や日本酒など美味しいものが多く、特に海鮮（氷見の寒ぶりやカニなど）が美味しく、富山・石川・福井（北陸）を楽しんでいます。富山で過ごす日々はとても刺激的で新鮮で楽しいです。まだまだ書きたいことは尽きませんが、またの機会にお話しすることにします。

最後に、私が本コラムで学生の皆さんに伝えたいことはどんどんチャレンジしてほしいということです。新しいことにチャレンジしたり、新しい場所に飛び込んでいくことは勇気がいることですが、今まで知らなかったことを知れたり、刺激的な日々を過ごせたり、知見が広がるので、どんどん飛び込んで新しいことやもの、場所にチャレンジしてほしいです。



筆者撮影の、ある冬の日の初めて見る雪にはしゃぐ息子の様子（上写真）。



筆者撮影の、とある日の立山の風景（左写真）と、とある日の雪が降り積もった日常風景（右写真）。